

一般質問

市政への質問

一般質問は、市政に関わる市の考えを聞いたり、議員が政策を提案したりするものです。各議員の質問項目は下記のとおりです（質問順に掲載）。

| | | |
|--|--|---|
| ① 江田 治雄（市民の会・絆） 1 ISSの取組 2 1月17日の大雪の対応 3 市長のフェイスブック | ⑥ 清野 和彦 1 大雪への対策（対策本部・排雪作業等） 2 学校給食の安全性と献立・食育の考え 3 「地域産業資源」の登録と活用 4 路上喫煙及び空き缶等のポイ捨て対策 | ⑪ 福井 貴代（公明党） 1 市役所本庁舎・市民会館の現場見学会 2 空き家解体ローン 3 「個人番号カード」申請の利便性向上 4 中村・宮地児童館の現状と今後 他 |
| ② 荒船 功（清流クラブ） 1 市長の施政方針 2 公共施設等総合管理計画 3 健康長寿埼玉プロジェクトの取り組み | ⑦ 富田 俊和（清流クラブ） 1 まちづくりの観点で都市計画街路は重要 2 ファシリティマネジメント 3 防災減災対策 4 就学前教育（しつけ）は大切 他 | ⑫ 大久保 進（公明党） 1 住民参加の協働によるまちづくり 2 祖父母手帳の導入 3 大雪対策 |
| ③ 落合 芳樹（清流クラブ） 1 総合支所 2 空き家問題 3 マイナンバーカード 4 教育行政 | ⑧ 斎藤 捷栄（日本共産党秩父市議会議員団） 1 ふるさと学習センター構想 2 秩父版総合戦略とCCRC構想 3 公共施設等総合管理計画 4 諸計画の相互関係と関連性 | ⑬ 金崎 昌之 1 元気高齢者の秩父移住に向けて 2 140号バイパスの完成と交通対策 3 雇用対策の現状と課題 |
| ④ 浅海 忠（市民の会・絆） 1 行財政改革とICTの取組 2 広域水道事業への積極的支援 3 福祉の充実「地域サロン活動」 他 | ⑨ 出浦 章恵（日本共産党秩父市議会議員団） 1 学童保育室の待機児童解消を 2 文化体育センタートレーニング室の充実 3 B型肝炎ワクチンの定期接種化 | ⑭ 木村 隆彦（清流クラブ） 1 高齢者の自動車運転 2 空き家等の適正管理及び有効活用 3 本庁舎及び市民会館建設の進捗状況 4 大雪時の除雪 |
| ⑤ 竹内 勝利（清流クラブ） 1 財政健全化判断比率の公表 2 人口減少 3 秩父市の観光事業 4 有害鳥獣対策 他 | ⑩ 赤岩 秀文（清流クラブ） 1 インターネットを利用した観光促進 2 ビーコン導入による観光客の動態調査 3 秩父地域におけるBMX競技普及 4 第3セクターの株主配当金と施設使用 | ⑮ 山中 進（日本共産党秩父市議会議員団） 1 介護保険における総合事業 2 除雪 3 スマホなどの情報提供に対する市の対応 |

※市議会ホームページのインターネット中継で、一般質問の様子をご覧いただけます。

大雪の対応

問 除雪作業に協力する地域ボランティア除雪隊に報奨金を支給する基準を60センチとした根拠は。

答 地域防災計画では大雪特別警戒発表時に非常体制をとることになっており、その基準が積雪概ね60センチと決まっているため。

問 その基準をいつきに概ね20センチに改定した理由は。

答 今回の雪は重く、気温の低い日が続き溶けずに市民の生活に大きな被害をもたらした。久喜市長の判断で急きよ積雪量の基準を引き下げた。

問 除雪報奨金の支給内容は。

答 重機の使用料一台一万円、雪の運搬車両一台五千元、雪置き場の提供は一か所三千元とし、各町会長を窓口にして申請する方法である。次回からは情報を周知徹底し、適切に支給していく。

ISS国際認証

問 第二中学校・花の木小・南小の3校が認証を受けた現状は。

答 インターナショナルセーフスクールは、市で進めているセーフコミュニケーションの関連事業である。安心・安全な学校づくりのプログ



市民の会・絆 江田 治雄

ラム・体制が確立され機能する事が国際的に認められる。

問 導入した事による、児童や教職員への負担は無いか。

答 「特色ある学校づくり」の一環として、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等に意識が高まり、成果が出ている。負担は少ないと判断している。今後も、ハード面・ソフト面で学校を支えていく。



南小学校の認証式の様子

◎市長のフェイスブック

一般質問

健康長寿埼玉 プロジェクトの取り組み



清流クラブ
荒船 功

問 埼玉県は、75歳以上の後期高齢者が急増する（団塊世代が75歳以上になる）「2025年問題」に向けて、健康寿命を延ばし、医療費の抑制につなげるための健康長寿埼玉プロジェクトへの参加市町村を全県下に広げる目的で、27年度20市町から28年度は41市町に拡大する。

秩父市では、27年度からこのプロジェクトに参加しているが、その取り組みの成果と28年度の取り組みについて。

答 秩父市が選択したのは、埼玉県推奨プログラムの「筋力アップトレーニング」で、名称を「新はつらつ筋力アップ教室」とし、市内3会場で4コース（中村いきがいセンター2コース・吉田やまなみ会館1コース・荒川農村環境改善センター1コース）計136人の申込者でスタートした。そのうちの128人は、個人にあわせて目標値設定により、半年間にわたる教室での筋力トレーニングや自主トレーニングなどを実施した。また、この事業は、運動だけでなく、個々に栄養指導も並行して実施するとともに、開始前と半年後



新はつらつ筋力アップ教室

に血液検査と体力測定を実施することにより、その成果を分析するものとなっている。27年度の結果については、現在、分析を行っているところである。
28年度は、前年からの継続者を4コース100人、新規募集3コース（秩父・吉田・荒川）90人を予定している。トレーニング方法については、27年度の分析結果を参考に、より効果的なプログラムを作成し、事業の効果的展開を目指す予定である。

総合支所について



清流クラブ
落合 芳樹

問 22年度から始まった地域生活環境整備事業（総合支所長枠予算）は、27年度で終了となった。この予算は、各総合支所の権限を強化するという市長のマニフェストでもあり、各総合支所長に支所内総合調整権を与えて、総合支所内の活性化と地域振興を図ると説明していた。この予算は市長の説明のとおり、地域振興に大いに役に立つと考えている。そこで、各総合支所長に6年間の総合支所長枠予算について、その効果をどのように評価しているのかを伺う。

答 吉田総合支所では、年間平均7件の事業を行った。赤平川・吉田川水辺公園にカエデ植栽を実施したほか、生活安全対策工事として、コンクリート舗装やネットフェンスを設置するなど、町会要望の事業を実施し、安心・安全なまちづくりに貢献できた。

大滝総合支所では、年間6件前後の事業を行った。主な事業として、落石防護柵の設置や法面の修繕などの工事を実施し、安心して住み続けられる地域づくりを行ってきた。

荒川総合支所では、有害獣防護



吉田総合支所

柵の維持修繕やペタンク場の整地などに対し維持補修用の資材を提供し、「地域でできることは地域で行う」という考えのもと地域力の向上に貢献している。
問 27年度で終了した総合支所長枠予算を28年度以降も継続できないか。
答 総合支所長枠予算の必要性を強く感じたため、前向きに検討し、6月または9月の定例会で検討結果を示したいと思う。

一般質問

28年度市長施政方針から



市民の会・絆 浅海 忠
あせつみ ただし

●広域水道事業

問 積極的支援の具体策は。

答 市長が広域化の方針を内外に公表し、重点項目として明言することにより、全庁的に「定住自立圏協定からの負担金」「高料金対策補助金」「施設更新への出資措置」「水道多量使用補助金の拡充」などの支援を行っていく。今後10年間を「水道強靱化の10年」と位置づけ結果を出すことにこだわり、職員の業務量を削減し、生産性の向上を図り経営効率化を実現する。

問 経常収支比率80%を目指すための仕事のやり方(タブレット端末を活用したペーパーレス化)は。

答 書類のペーパーレス化は、市長自ら実践しており、議会その他の会議等での配布書類のペーパーレス化をできるだけ広く実現したい。災害時等の緊急業務におけるタブレット端末の活用は、現場と事務所間のリアルタイムでの情報共有や対応策の検討において有効な手段と考えており、導入を検討する。省資源化・経費削減・事務軽減による人件費削減に繋がるペーパーレス化だが、通信料・端末使用料・閲覧ソフト使用料等、財政面からの検討も必要である。情報セキュリティ等も考慮しながら検討を進める。議会運営のペーパーレス化は、職員の意識改革面で極めて効果の高い事業と考え、実現に向け検討する。文書の減量化は経費削減のみならず、限られた保管スペースの有効活用の面からも、ペーパーレス化を始めとしたICTの活用は喫緊の課題と考えている。



大量の紙を消費する議会資料

市の政策について



清流クラブ 竹内 勝利
たけうち かつとし

●人口減少

問 食い止める策はあるか。

答 経常収支比率は、財政健全化の目標値にもしていることから、今後は財政健全化判断比率の公表に合わせ、市報、ホームページにて公表を行いたい。

●市の観光事業

問 アンテナショップやジオパークのPRなどの観光振興施策は。

答 市が直接運営するアンテナショップはないが、商店街が運営する施設が街なか誘客の核施設として機能している。市としてはこれらの民間主導のショップと連携し、地場産品の販路開拓、PR、販売促進を支援していきたい。ジオパークは、秩父地域1市4町がまとまり、様々な分野、団体に広がりを見せている事が評価され12月に再認定をされた。国の天然記念物に指定された化石群やジオツアー等の学習観光を含め、強力にPRしていく。今後の観光振興施策としてもこれらを活用し、秩父への観光、街なかへの誘客促進に努めていく。



国の天然記念物に指定された「取方の大露頭(だいらとう)」

一般質問

大雪時の対策本部と指示について



きよの かずひこ
清野 和彦

問 今回の大雪ではどのような対策本部が設置され指示をしたのか。

答 災害対策本部の設置は地域防災計画で大雪特別警報発表時、又は概ね積雪量60センチ以上とされており、今回の積雪は対策本部設置には該当しなかった。本部を地域整備部に、現地対策本部を各総合支所に設置する除雪対策本部は災害対策本部の設置基準に至らなかったため設置せず、総務部危機管理課、地域整備部及び各総合支所の防災担当で連絡調整を図り除雪対策にあたった。

給食の安全性

問 秩父市では給食への異物の混入はどのようになっているのか。

答 27年4月から28年1月末までに31件の報告書が提出されており、主なものは虫、髪の毛、ビニール片等の「非危険異物」で「危険異物」の報告はない。学校、調理場、関係業者と連携し原因の究明を行い、改善策を含む報告書を提出させ安全性の向上を図っている。

路上喫煙及び空き缶等のポイ捨て

問 おもてなしの具体的な取り組みとして路上喫煙やポイ捨てを禁止する、または防ぐことを目的とした条例を制定するべきでは。

答 市ではたばこの吸い殻や空き缶等のポイ捨てなど散乱防止を規定した秩父市環境保全条例を制定している。マナー向上の周知を粘り強く行っていきたい。現段階では新たな条例制定は考えていない。



通年観光地としてタバコのポイ捨て対策に本気で取り組む時期では

◎中小企業地域資源活用促進法による「地域産業資源」の登録と新たな仕組みである「ふるさと名物応援宣言」の活用について

まちづくりの観点で都市計画街路は重要



とみた しげお
清流クラブ 富田 俊和

問 中心市街地の活性化の推進において、必要な道路整備は基本中の基本である。都市計画街路「桜木通線」及び「永田通線」は早急な事業着手が必要であるが、今後の方針は。

答 未着手の都市計画道路は計画決定から長期間を経過し、現況では整備に伴う市民への影響も大きい。道路整備は完成までに長期間の事業となるため、100年先のビジョンに立った新たなまちづくり計画事業として整備を推進する。

ファシリテイマネジメント

問 ファシリテイマネジメントは施設や設備に対し賢い管理を行うことであると考えますが、公設市場の雨漏りを5年間も放置していることがファシリテイマネジメントなのか。

答 28年度に策定する今後10年間の管理計画の中で対応したい。

防災減災対策

問 指揮官の判断・決断・行動が防災減災へと繋がる。土砂災害に対しては過去の履歴を検証し、実務的な対応が求められているが。

答 「秩父市災害時安全対応マニュアル」を28年4月に全戸配布し、防災行政無線や安心・安全メールなどさまざまな手段で対応する。

問 就学前教育（しつけ）について、小学校や教育委員会でやっていることがあるか。

答 校長等から「人の話をしっかりと聞くことの大切さ」や「基本的な生活習慣を身につけること」などを保護者に説明し、子どもたちにも指導している。



永田通線

一般質問

市民生活の安心・安全をめぐって

日本共産党秩父市議会議員団

さいとう 斎藤 かつしげ 捷栄



●ふるさと学習センター構想

問 新市まちづくり計画中の主要プロジェクトであるふるさと学習センターについての方針を市民に対して明らかにすべきと思うが。

答 震災を受けて「延期もしくは中止」とし、市民会館の建設を優先してきた。「学び・憩う・集う」としたコンセプトのうち、新市民会館は、「学び」の拠点としての機能が不足していることから、図書館、資料館などの在り方とも合わせ、市民の意見を聞きながら構想をまとめた」と考えている。

●総合戦略とJOCRCR構想

問 豊島区との間のCCRCR構想は総合戦略のすべてか、一部か。

答 基本目標を実現するための事業の一部と考えている。

問 秩父版総合戦略の策定状況は。

答 現在最終的な取りまとめを行っている段階で、3月中にはお示しできるものと考えている。

●公共施設等総合管理計画

問 計画推進の基本方針は。

答 今回の管理計画が基本方針でその方針に則った個別施設計画を

決定していきたいと考えている。

問 市民との協議の進め方は。

答 施設の廃止や統合に当たっては、可能な限りサービスの低下を防ぎ施設の機能存続のための協議を進めていきたいと考えている。

●諸計画の相互関係と関連性

問 総合振興計画、総合戦略、公施設等総合管理計画、3つの計画の相互関係・関連性は。

答 相互に関連し合っており、効果的、効率的な運用を図れるよう、総合振興計画の中に図で表示した。



第2次秩父市総合振興計画

学童保育室の待機児童はどうなる

日本共産党秩父市議会議員団

ごんたけ 出浦 ちかこ 章恵



善を図っていく考えである。

問 学童保育室の入室状況と新年度入室希望状況はどうなっているのか。

答 公立14学童保育室の28年2月1日現在の入室者は516名。新年度の希望者は申請者数620名のうち578名の入室が決定し、42名が待機児童。内訳は、5年生39名、6年生3名。

問 待機児童が出るのは下郷学童とどの学童か。

答 西学童と影森学童保育室。待機児童への対応はどうする。

問 現在、当該学校と連絡・調整を図り、学童保育室として利用することができるとあるか調査中。放課後や長期休業日等に利用可能な教室があれば、保育室として整備し、さらに職員の確保を考え、待機児童の解消に向け検討中。

問 学童指導員の人員不足と待遇改善を図って欲しいが考えは。

答 28年度からは、嘱託職員の報酬を月額3000円、パート職員の時給単価を15円増額する賃金改善を図る予定。また、子ども子育て支援交付金の「放課後児童支援員等処遇改善事業」を活用し、民間学童保育室の指導員の賃金改

●文化体育センタートレーニング室の利用促進

問 市民の体力増進、パワーアップのためのトレーニング室の拡大と機器を充実して欲しいが考えは。

答 毎年1万人前後と多くの方の利用がある。機器の故障は随時更新し、少しずつ入れ替えている。手狭なため今後場所の拡大も考えていく。利用者の声も聞き、できる限り施設・設備の充実を図る。



トレーニング室のマシン紹介